国語・表現の効果と根拠を説明する読解ワーク 解答解説

正答・本文根拠・表現の効果・詳しい解説

対象教科	国語
対象単元	説明的文章・文学的文章・表現効果・根拠
問題構成	基礎3問・標準4問・本番形式3問
問題数	10問
目標時間	50分
難易度	基礎〜標準
公式確認日	2026-09-12

解答確認の方針

表現の特徴を正しく捉え、本文中の根拠と結び付けて、強調、印象、心情、場面の変化などの効果を説明しているか確認します。模範解答と同じ語句でなくても、本文に即した同等の説明は適切な答えとして扱います。効果の許容範囲と採点観点は人間が最終確認します。一律の部分点や減点数は設定しません。

問題 1

雨上がりの校庭

区分：基礎

「水たまりは小さな鏡になり」という表現には、どのような効果がありますか。本文に即して答えなさい。

正答：水たまりが空を鮮やかに映す様子を、形と働きが似た鏡にたとえて具体的に思い浮かべさせる効果。

答えの形式

四十字程度の一文。

本文中の根拠

校庭の水たまりは小さな鏡になり、空の青さを映した。

注目する表現

水たまりは小さな鏡になり

比較する表現

水たまりに空が映り

効果の種類

比喩による情景の具体化

都立入試ナビ

表現と効果の関係

水たまりを鏡にたとえることで、雨上がりの校庭に空の色が映る様子を視覚的に強調している。

考え方

・水たまりと鏡の共通点を探す。

・直後の「空の青さを映した」と結び付ける。

・読み手が想像しやすくなる情景を答える。

詳しい解説

鏡という身近な物にたとえると、水面が光を反射して空を映す様子が一目で想像できます。比喩の名前だけでなく、何が具体的になるかまで答えます。

確認観点

比喩であること、水たまりが空を映す様子、情景を具体的に想像させる効果の対応を確認します。

許容される説明の要点

・水たまりと鏡の似た働きを捉えている。

・空の青さが映る情景を具体的に想像させると説明している。

間違いやすい点

「比喩で印象的になる」とだけ答え、鏡との共通点や空を映す様子を書かないこと。

見直しポイント

正答から「鏡」という語を外しても、本文のどの様子を説明しているか分かるか確認する。

問題 2

朝の階段

区分：基礎

「一段、また一段。」という短い文を用いたことで、どのような様子が強調されていますか。

正答：発表への緊張で足が重い直人が、階段を一歩ずつゆっくり上る様子。

答えの形式

三十五字程度の一文。

本文中の根拠

一段、また一段。足は重かったが

注目する表現

一段、また一段。

都立入試ナビ

比較する表現

直人は階段を上った。

効果の種類

短文と反復による動作の強調

表現と効果の関係

動作を短く区切って繰り返すことで、直人の歩みの遅さと緊張の大きさを感じさせる。

考え方

・句点で文が短く切れていることに注目する。

・「また」による反復を確認する。

・直後の「足は重かった」から人物の状態を捉える。

詳しい解説

一続きに説明せず短く区切ると、一歩ごとの動きに読み手の注意が向きます。直後の足の重さと合わせると、緊張しながら進む様子が強く伝わります。

確認観点

短文・反復、一歩ずつの動き、発表前の緊張のうち、本文に即したつながりを確認します。

許容される説明の要点

・一歩ずつ進む遅い動きを捉えている。

・足の重さを発表前の緊張と結び付けている。

間違いやすい点

階段の段数が多いことだけを効果として答えること。

見直しポイント

「直人は階段を上った」と比べ、元の表現で新たに感じ取れる速さや心情を書けているか見る。

問題 3

二つの掲示

区分：基礎

「題名は本の存在を知らせる。感想は本を開くきっかけを知らせる。」と対比した効果を答えなさい。

正答：題名と感想の役割の違いを同じ形の文で並べ、感想が読書への行動を促す点を明確にする効果。

答えの形式

四十五字程度の一文。

都立入試ナビ

本文中の根拠

題名は本の存在を知らせる。感想は本を開くきっかけを知らせる。

注目する表現

題名は本の存在を知らせる。感想は本を開くきっかけを知らせる。

比較する表現

題名と感想にはそれぞれ役割がある。

効果の種類

対比と反復構文による違いの明確化

表現と効果の関係

同じ文型で題名と感想を対比し、知らせる対象が存在から行動のきっかけへ変わることを示している。

考え方

・二文で繰り返される形を確認する。

・「存在」と「本を開くきっかけ」の違いを整理する。

・対比によって何が明確になるか答える。

詳しい解説

文の形をそろえて内容だけを変えると、違いが比べやすくなります。ここでは題名が情報を伝え、感想が行動を促すという役割の差が明確になります。

確認観点

同じ文型、二つの役割の対比、感想が行動を促す点の説明を確認します。

許容される説明の要点

・題名と感想の役割の違いを捉えている。

・同じ文の形で並べたため違いが明確になると説明している。

間違いやすい点

二枚の掲示のどちらが優れているかだけを答え、文の形の効果に触れないこと。

見直しポイント

二文の同じ部分と異なる部分に印を付け、異なる語が示す役割の差を正答に含めたか確認する。

問題 4

失敗を書き残す理由

区分：標準

都立入試ナビ

「書く」を三度繰り返したことと、最後の比喩にはどのような効果がありますか。

正答：失敗時に記録すべき内容を順に強調し、その記録が次の改善を導く働きを地図にたとえて分かりやすくする効果。

答えの形式

五十五字程度の一文。

本文中の根拠

なぜずれたのかを書く。使った道具を書く。気付いたことを書く。失敗の記録は、次の実験を始めるための地図になる。

注目する表現

なぜずれたのかを書く。使った道具を書く。気付いたことを書く。

比較する表現

失敗した理由や道具、気付きを記録する。

効果の種類

反復による強調と比喩による働きの具体化

表現と効果の関係

「書く」の反復が記録項目を際立たせ、地図の比喩が記録から次の方法を見付けるつながりを示す。

考え方

・繰り返される語と、毎回変わる内容を分ける。

・地図が人を目的地へ導く働きを考える。

・記録が次の実験へどう役立つか本文に戻して説明する。

詳しい解説

反復は、原因、道具、気付きの三点を読み手に刻みます。地図の比喩は、それらの記録が改善の方向を示すという抽象的な働きを具体化します。

確認観点

反復の対象、地図の比喩、次の実験を改善する働きの三点が対応しているか確認します。

許容される説明の要点

・三つの記録内容が強調されると捉えている。

・記録が次の改善を導くことを地図の働きに結び付けている。

間違いやすい点

「リズムがよい」とだけ答え、何が強調され、地図が何を表すかを書かないこと。

都立入試ナビ

見直しポイント

反復の効果と比喩の効果を別々に一文で説明し、最後に一つの正答へまとめる。

問題 5

風が通る教室

区分：標準

風を「駆け込み」「すり抜け」と表したことで、場面にどのような効果が生まれていますか。

正答：風を素早く動く人のように表し、静かだった教室へ急に動きと明るさが生まれた印象を与える効果。

答えの形式

四十五字程度の一文。

本文中の根拠

風は廊下から教室へ駆け込み、机の間をすり抜け、カーテンを軽く持ち上げた。

注目する表現

風は廊下から教室へ駆け込み、机の間をすり抜け

比較する表現

風が教室に入り、机の間を通り

効果の種類

擬人法による動きと活気の付加

表現と効果の関係

風に人の動きを与えることで、空気の変化を勢いのある動作として示し、三人が笑う場面の明るさにつなげている。

考え方

・本来、風がしない人の動作を探す。

・動作から感じる速さや勢いを考える。

・直後の三人の反応と結び付ける。

詳しい解説

「入った」よりも「駆け込んだ」と表す方が速さと勢いが伝わります。カーテンや人物の反応も含め、止まっていた場面が動き出す効果を説明します。

確認観点

擬人法、速さや勢い、教室の雰囲気の変化を本文の範囲内で説明しているか確認します。

都立入試ナビ

許容される説明の要点

・風を人のように表していると捉えている。

・教室に勢い、動き、明るさのいずれかが生まれると説明している。

間違いやすい点

風が強いと断定すること。本文は勢いのある印象を示しますが、風速は示していません。

見直しポイント

「風が入った」と置き換え、失われる人物らしい動きや場面の活気を比べる。

問題 6

一分間の静けさ

区分：標準

「けれど」を用いて前後をつないだことで、何が強調されていますか。

正答：話さない静かな時間が停滞ではなく、ばらばらな考えを整理する時間になったという意外な変化。

答えの形式

四十字程度の一文。

本文中の根拠

けれど、その静けさの中で、ばらばらだった考えが少しずつ並び始めた。

注目する表現

けれど、その静けさの中で

比較する表現

その静けさの中で

効果の種類

逆接による予想外の変化の強調

表現と効果の関係

静けさを話合いの停止と捉えそうな予想を転じ、考えが整理される積極的な働きを際立たせる。

考え方

・「けれど」の前で起きたことを整理する。

・後で起きた変化を確認する。

・普通の予想と異なる点を言葉にする。

都立入試ナビ

詳しい解説

話合いでだれも話さなければ止まったように見えます。しかし逆接の後に考えの整理を置くことで、沈黙にも前へ進める働きがあると示します。

確認観点

逆接、静けさへの予想、考えが整理される変化が一つの説明としてつながっているか確認します。

許容される説明の要点

・静けさが停滞ではないと捉えている。

・考えが整理される変化を強調すると説明している。

間違いやすい点

彩が時計を見た理由だけを説明し、逆接の前後の変化を書かないこと。

見直しポイント

「けれど」を「そして」に替えた場合と比べ、意外さが弱くなる理由を説明する。

問題 7

机の向きを変える

区分：標準

「話合いは変わるのだろうか。」という問いかけには、どのような効果がありますか。

正答：机の配置だけで話合いが変わるのかを読み手にも考えさせ、後の参加者の変化へ注意を向ける効果。

答えの形式

四十五字程度の一文。

本文中の根拠

見えるものが変わるだけで、話合いは変わるのだろうか。次の会では、うなずきや表情を確かめながら話す人が増えた。

注目する表現

話合いは変わるのだろうか。

比較する表現

机の向きを変えると話合いも変わる。

効果の種類

問いかけによる思考の促進と後続内容への注目

表現と効果の関係

問いを置いて結論をすぐ示さず、読み手に予想させた後、次の会で起きた変化を答えとして示している。

都立入試ナビ

考え方

・問いの答えが直後にあるか探す。

・読み手が予想する時間が生まれることを考える。

・後続の具体的な変化と結び付ける。

詳しい解説

断定を先に置くより、問いを挟む方が読み手は自分で答えを予想します。その後の具体例が問いへの答えとして働き、変化が印象に残ります。

確認観点

読み手への働きかけと、後続する話合いの変化の両方を説明しているか確認します。

許容される説明の要点

・読み手自身に考えさせる効果を捉えている。

・後のうなずきや表情の変化へ注意を向けると説明している。

間違いやすい点

本文の問いに「はい」「いいえ」で答え、表現の効果を説明しないこと。

見直しポイント

問いを断定文に替え、読み手が考える間と後続内容への注意がどう変わるか比べる。

問題 8

橋の上の灯り

区分：本番形式

町の灯りが「忘れないで」と呼び掛けるように見えたという表現から、奈央のどのような心情が伝わりますか。表現の効果とともに答えなさい。

正答：町を離れる寂しさと記憶を残したい思いを灯りの呼び掛けとして表し、奈央の心情を情景に重ねて伝える効果。

答えの形式

五十字程度の一文。

本文中の根拠

町の灯りはいつもと同じだったが、今日は一つ一つが「忘れないで」と呼び掛けているように見えた。

注目する表現

一つ一つが「忘れないで」と呼び掛けているように見えた

都立入試ナビ

比較する表現

奈央は町を離れることを寂しく思った

効果の種類

擬人法と情景描写による心情の間接表現

表現と効果の関係

変わらない町の灯りに奈央の思いを映し、転校を前にした寂しさを直接説明せず情景から感じ取らせる。

考え方

・転校前という状況を確認する。

・いつもと同じ灯りが今日だけ違って見える理由を考える。

・灯りの言葉を奈央自身の思いに置き換える。

詳しい解説

灯りが実際に話すのではなく、奈央の心情がそう見せています。心情を直接書かず、見慣れた景色の変化として表すため、別れの寂しさが静かに伝わります。

確認観点

転校の状況、寂しさや記憶への思い、灯りへの心情投影の説明を確認します。

許容される説明の要点

・町を離れる寂しさや名残惜しさを捉えている。

・奈央の心情を灯りの呼び掛けに重ねた効果を説明している。

間違いやすい点

町の灯りが奈央に本当に話し掛けた出来事として読むこと。

見直しポイント

灯りの言葉を奈央の心の中の言葉として書き直し、本文の状況と矛盾しないか確かめる。

問題 9

遠回りの地図

区分：本番形式

「早く着く道」と「遠回りする道」を対比したことで、筆者の考えがどのように伝わりますか。

正答：効率だけを求める道と新しい発見を生む道を対比し、遠回りには目的を広げる価値もあるという考えを際立たせる。

答えの形式

五十五字程度の一文。

都立入試ナビ

本文中の根拠

早く着く道は目的地へ運ぶ。遠回りする道は、目的そのものを増やすことがある。

注目する表現

早く着く道は目的地へ運ぶ。遠回りする道は、目的そのものを増やすことがある。

比較する表現

遠回りをすると新しいものを見付けられる。

効果の種類

対比による主張の強調

表現と効果の関係

到着の速さと発見の広がりを対比し、井戸や地図の新しい印が遠回りの価値を具体的に支えている。

考え方

・二文の主語と述語を対応させる。

・「運ぶ」と「増やす」の違いを整理する。

・井戸と地図の印がどちらの考えを支えるか確認する。

詳しい解説

似た形の二文で道の働きを並べると、速さと発見という異なる価値が明確になります。具体的な井戸の発見があるため、遠回りの価値は抽象的な感想ではなく本文の事実に支えられます。

確認観点

二つの道の働き、対比、目的が増えるという主張、地図の印との対応を確認します。

許容される説明の要点

・効率と発見の広がりを対比している。

・遠回りが目的や関心を増やす価値を強調すると説明している。

間違いやすい点

最短経路を否定していると決め付けること。本文は二つの道の働きを比べ、遠回りにも価値があると述べています。

見直しポイント

正答に「速さ」と「発見」の両方が含まれるか確認し、一方だけの説明になっていないか見る。

問題 10

声の温度

区分：本番形式

都立入試ナビ

「言葉が冷たい」「空気が少しやわらいだ」という表現は、歌い方の変化をどのように伝えていますか。

正答：歌声の正確さではなく、相手へ届ける気持ちの有無を温度や空気の感触にたとえ、表情の変化を感覚的に伝えている。

答えの形式

五十五字程度の一文。

本文中の根拠

「でも、言葉が冷たいままだった」と続けた。後輩は戸惑った。奏は同じ一節を、遠くの友達へ知らせるつもりで歌ってみせた。すると声の輪郭はそのままに、教室の空気が少しやわらいだ。

注目する表現

言葉が冷たいままだった

比較する表現

気持ちが十分に伝わらない歌い方だった

効果の種類

感覚的な比喩と対比による印象変化の具体化

表現と効果の関係

冷たさとやわらかさの感触を対比し、音程は同じでも、届けようとする気持ちによって歌の印象が変わることを示す。

考え方

・「声の輪郭はそのまま」から変わらない点を確認する。

・冷たいとやわらかいが示す感覚の違いを整理する。

・遠くの友達を意識したことと変化を結ぶ。

詳しい解説

歌そのものに温度はありません。触覚を表す語を使うことで、聞き手が感じる距離や親しさの違いを感覚的に示しています。音の正確さと表現の伝わり方を区別することが重要です。

確認観点

比喩、冷たさとやわらかさの対比、相手を意識する気持ち、歌の印象の変化を確認します。

許容される説明の要点

・冷たさとやわらかさを歌の印象に結び付けている。

・音の正確さは同じでも、相手を意識する気持ちで伝わり方が変わると説明している。

間違いやすい点

教室の実際の気温が変化したと読むことや、後輩の音程が直ったと答えること。

都立入試ナビ

見直しポイント

温度を表す語を外して言い換え、歌い方の何が変わったのかを本文の出来事だけで説明できるか確かめる。

総合見直し

・注目する表現と答えで扱う表現が一致している。

・表現を平易に言い換えられている。

・効果を「分かりやすい」「印象的」だけで終えていない。

・本文中の根拠を使って効果を説明している。

・人物の心情や筆者の考えを本文以上に広げていない。

・設問が求める答えの形式と字数の目安を守っている。

公式情報確認日：2026-09-12

都立入試ナビ

都立入試ナビ

都立入試ナビ